

2011 年度 現地奨学候補生 一覧

2011 年 4 月から日本の教育機関に留学したいという希望を持っている人達に対し、1 次選考として書類審査、2 次選考としてソウルで面接を行い、大学院、大学、専門学校への進学希望者を対象とした一般財団法人共立国際交流奨学財団奨学生に下記の 3 名が奨学金給付候補生として選ばれました。

応募者の内訳は、大学院 21 名、大学 41 名、専門学校 14 名の合計 76 名でした。

2011 年度奨学金給付候補生として採用された皆さんが、留学を希望する教育機関に入学し目的とする学問を習得し、充実した留学生活を送ってくれるよう期待しています。

日時:2010 年 9 月 18 日(土)09:30～11:00

場所:LOTTE HOTEL SEOUL 36F

■ 2 次選考(面接)



会場内看板



面接待機中



面接の様子

■ 奨学候補生 発表



授与式会場



菊川理事長挨拶



菊川理事長より「奨学候補生採用証」を授与

●2011 年度奨学金給付候補生（3名）

一般財団法人 共立国際交流奨学財団奨学生（月額100,000円×24ヶ月） 3名：

- ① 鄭 寶羅（チョン ボラ） 慶熙大学校 英語学科 卒業
一橋大学大学院 商学研究科 進学希望
 - ② 楊 允晶（ヤン ユンジョン）漢栄外国語高等学校 在学
慶応義塾大学 法学部法学科 進学希望
 - ③ 宋 始炫（ソン シヒョン）淑明女子大学校 日本学科デザイン副専 卒業
文化服装学院 スタイリスト科 進学希望
- （注）2011 年 4 月迄に、受給条件（1.2.3）を満たした時に受給される。



後列左より、鄭 寶羅、宋 始炫、楊 允晶

前列左より、北原賢三選考委員、菊川長徳選考委員長、黒田勝弘氏（産経新聞ソウル支局長）
李康民氏（漢陽大学校 日本言語・文化学科教授）、柳宗洛ソウル事務所長

<講評>

■ 選考委員 北原賢三（神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科 教授）



今回の選考会は専門学校、大学、そして大学院への進学希望者各 3 名で合計 9 名の学生および社会人が応募しました。前回にも増して進学の目標、目的そして動機が明確な応募者が多かったことが今回の特徴といえると思います。例えば、ある専門学校への進学応募者は、単に服飾系専門学校へ進学して服装のデザインを学ぶのではなく、「服装というものはもっと人間性に密着した個性的なものであるべきだ」というデザインの哲学を持っていました。他のゲームデザイン専門学校志望の応募者は、「ゲームというものを歴史、社会、哲学的な見地から考え、デザインしていく」ことが目的であると述べていました。たいへん明確でしっかりした仕事に対する考えをもっていることに感心しました。

また、大学部門では、法学部をめざす応募者は、将来国際的な人権弁護士をめざしたいとの目標を持っていました。あるいは、放送映像技術を芸術学部で学びたいが、すでに目標とする監督と演出家がいるとのことでした。大学院部門では、ある応募者は、日系企業に勤めた経験からグローバル経営の専門家になりたいとの志望を述べていました。他の応募者は、モンゴルでの研究体験から災害予防体制の研究をしたいとの目的を話していました。このように、目標や目的そして動機がかなり具体的であり、分かりやすかったのが印象的でした。どの応募者を奨学金候補者にするかは選考過程では、菊川選考委員長ともどもたいへん苦労しました。つまり、どの応募者もそれぞれよい持ち味があり、誠実な人柄もよく理解できました。そのため各部門から一名の選考は容易ではありませんでした。結局、応募者の主張するような計画に従って、各専門学校、大学、そして大学院に進学できそうな可能性、日本語能力の高さ、志望動機の明確性などから総合的に判断しました。このような選考の結果、選ばれた奨学金候補生には、惜しくも選ばれなかった応募者の分も努力して初志を貫徹することを心から期待しています。